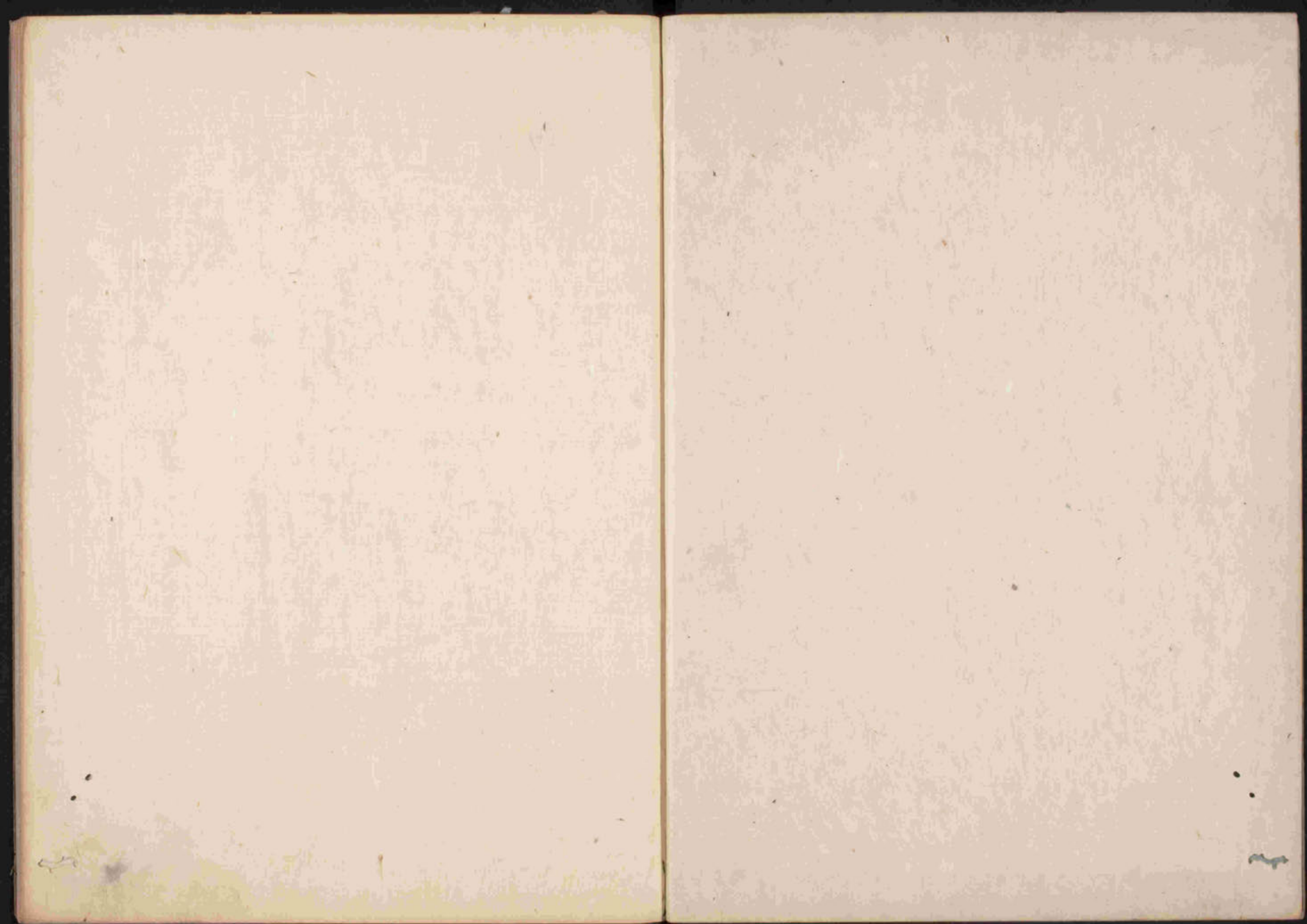


史本

十九
雜一



天

海

天

天

天

天

天

天

天

天

天

支本和歌抄卷第十九

雜部一

題

天 雷 虹 曉 夜 山 良

日 雲 火 朝 東 共 彼 岸

星 雨 烟 晝 西 乾

風 滴 虞 夕 南 坤

天象

千音昔三今

後久我大下

きさるみりのまはあはれと君とせはは

後京後極段

久方なるのまのまの世の三のりり何ん

昔若百有今 曰

世向にまをせまのまのたがひのまを

曰 度家

あふれしそえぬをたをみりしきくそ

曰 年運法師

久方なるのまのまのあふれしきくそ

支本和歌抄



建保三年右所百有月

定東卿

みらのれ日新の徳はうきまにたうはまたたの森の下に
百有款 為東卿

庭の面日新の徳はうきまにたうはまたたの森の下に

百有款

日

たのれまもまぬの徳はうきまにたうはまたたの森の下に

日

光後御片

海よつとまのりてうきまにたうはまたたの森の下に

三鴻社

市奈儀雅臣

和男のり入のりてうきまにたうはまたたの森の下に

衣集三月物取海 権大納言實家

いみうのりてうきまにたうはまたたの森の下に

衣集

和泉式部

夢のりてうきまにたうはまたたの森の下に

室勝皇女院右所障子

後成女

乃れ日新の徳はうきまにたうはまたたの森の下に

○星

美久二年白季百有星

定東卿

みの本新の徳はうきまにたうはまたたの森の下に

衣集

日

未定
玉雜二

ふくむ柄のいりたに
火久早可為星
神祇仿題件補

月
宵のつら
星とまらふ
伴實朝氏

日
白くして星とくく
二條皇太后言能後

神いり海く山之
夜集寄星夜
源伴正

つるまは星よりの
神祇仿題件
夜集寄星夜

おはせしむる
夜集寄星夜
夜集寄星夜

春初傳中極云
北斗七星天極
和五帝七為標
際正極西極南
居廣布陽故也

君作をせのり
日
光後朝氏
為東端

くすまたも海一の
千九百番三合
正三位
補

住者社秋歌
東隆補

らりふけ一の
東隆補

定本
夜集寄星夜

カ

漢人之如

舟より思ふも何し舟中の別はかゝるの如し

天文九年毎日一書中 為末部

さか夜のみまの星の林より霜吹ちるも本らじの如

弘長四年毎日一書中 日

みあす川舟の星と関に長く何れ新う久

夜集

大御言信史

朝のあすささくささくささくささくささくささく

よる人

よるよるよるよるよるよるよるよるよるよるよる

此歌はちきり立一女の年いこくさす

あり書付ゆえ也 題不知六一

夜集意中

忠太

口多しと山のいけりまつの花にさかすけ

五十題をわ

人丸

あつと通して地のうらみあつとあつとあつと

空の海に舟の波を舟の舟に舟の舟に舟の舟に

為末部家百首

家長の片

多みい一里にいりうらみあつとあつとあつと

任昌版四十七首歌中

定長部

印のふたにちかすおきねるあつとあつとあつと

仙洞五十首家雜月

後意稿

日のあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

御異教欣日紀下卷用明大皇御世皇太子更々有詔 聖德太子名豐聰耳也
聖德太子有也
南行等はるる皇は功績
或は瑞寺の事は深
或は瑞寺の事は深
或は瑞寺の事は深
或は瑞寺の事は深

取方子天主の座下ニ依テ奏日皇ハ榮威星
也天王敬テ是クハ太子奏曰天下ニ皇有
主五行象立る咸星ハ父青ニ東木ハ榮威
父赤主南火ハ母皇トテ地ニ人ハ威重
子母ト交リテ好テ作謡ヲ未來の事也
之ハ蓋皇是皇ハ天皇大ニ收行其日製日
神宮のいふに多クハ皇トテ其日製日
トありテハ新皇ハ也ト云フ

○風

風

菅原たけなほ

禊婦のちりちり夜よしのききせむいふ人

新撰和歌

あしきけり女房ちりちりきけり

立止り神もささくは音付ちりちり國おひたふ

文永五年毎月一首中

為末端

巳年とちりちり音付ちりちり風はひら

住吉社百首中 並俱和名

あしきけり女房ちりちりきけり

西行上人

朝もたけちりちり音付ちりちり風はひら

此等謙徳の例さしおき有けり後世

あしきけり女房

淡人介

今風月と云ふし如く金市に云ふ秋の風

六帖題

光後御代

霜の如く野中の草花を吹く

曰

為家御

吹く風の如くまきし格の吹く

十名云

為家御

吹く風の如く秋の風を吹く

百名云

中務御

風吹く如く秋の風を吹く

秋の風を吹く

光後御

吹く風の如く秋の風を吹く

為家御

風の音の如く秋の風を吹く

題不知六帖春風

淡人御

秋の風を吹く

曰

曰

秋の風を吹く

夕秋中候風

人云

秋の風を吹く

永仁元年八月十五夜五音月前秋風

為家御

秋の風を吹く

大伴源何

栞花より以て風音にのまきしるはるる

飛鳥風

志願皇子

多岐の袖吹く風音にのまきしるはるる

題之知漢風 漢人

三月の風吹く風音にのまきしるはるる

月三付月

坂田守

非せし衣吹く風音にのまきしるはるる

十五百番新風

題船

昔山に月付せきし様今や守の如く

題不知桐風

若陽産王

昔山に月付せきし様今や守の如く

題不知桐風

人丸

今月吹く日よ長き月よ長き月よ長き

時は風

昔月吹く日よ長き月よ長き月よ長き

題之知漢風

中御言家持

昔月吹く日よ長き月よ長き月よ長き

題之知漢風

漢人一

昔月吹く日よ長き月よ長き月よ長き

正治三年百番吹

昔月吹く日よ長き月よ長き月よ長き

家風

丸子建大蔵

昔月吹く日よ長き月よ長き月よ長き

朝風

漢人

昔月吹く日よ長き月よ長き月よ長き

家隆編

此の御書は西の國の御書にて日くじの御書に似山

新六三

六指題 舟津堀内 衣笠田内片

おはりの浦の御書に似たりと云ふは御書の御書なり

十五百番南の月 頭照

おはりの浦の御書に似たりと云ふは御書の御書なり

可孝可孝 定遠端

三比美の御書に似たりと云ふは御書の御書なり

志るの月 和泉或教

おはりの浦の御書に似たりと云ふは御書の御書なり

此の御書に似たりと云ふは御書の御書なり

おはりの浦の御書に似たりと云ふは御書の御書なり

神祇家集

権僧正之朝

此の御書に似たりと云ふは御書の御書なり

保延御書に似たりと云ふは御書の御書なり

大江維禎の片

此の御書に似たりと云ふは御書の御書なり

此の御書に似たりと云ふは御書の御書なり

此の御書に似たりと云ふは御書の御書なり

常盤百番谷内 原伴正

此の御書に似たりと云ふは御書の御書なり

顯の知 備馬東心 阿いの月

清人之書

此の御書に似たりと云ふは御書の御書なり

又
知
乃
乃
乃
乃
乃

Handwritten text on a vertical strip of paper, possibly a page from a book. The text is written in a cursive script. At the top, there are three red markings: a plus sign followed by the number 2, a plus sign followed by the number 4, and a plus sign followed by the number 3. The main body of the text consists of several lines of cursive handwriting, which is partially obscured by the dark background of the book cover.

大蔵御家寺

紅の梢の角のうらりこころの縁の月をまじりて

家集隨生月 和泉三郎

那事くみんき物に御家下りまじりては

住吉社百有寺の文受の月

慈鎮味尚

天王寺百有寺の文受の月

天王寺百有寺の文受の月

同

和文のうらりこころの縁の月をまじりて

正治二年百有寺の文受の月

喜多院合の御親

し朝のし龍白の余のうらりこころの縁の月をまじりて

六指題山の下の月 為家

東集の下の月 西行上人

其のうらりこころの縁の月をまじりて

日吉社御合意の初月

慈鎮味尚

其のうらりこころの縁の月をまじりて

同

其のうらりこころの縁の月をまじりて

好忠

其のうらりこころの縁の月をまじりて

東集の下の月 西行上人 喜多院合の御親

○催馬樂
アヲキチノ
ヲキチヤ
自滿
後
...

よし傳女... 後久我左衛門

日教... 後久我左衛門

關風音高村風 惠慶法師

平山... 吹

寶治二年百首 光後朝片

絶く... 世

久... 合

法性... 渡

得... 也

建長八年百首合 表

海... 合

六帖題名風

信實朝片

後二條

花... 合

月... 也

日... 時

如... 神

慈照寺高

く... 也

十題百首

後京極

若... 萩

太神宮百首

後多門院

非... 也

東集隱題名

忠

天保九年... (faint text)

雷

題不知

人丸

雨... (faint text)

長歌

後人の歌

... (faint text)

後人の院

... (faint text)

後城

... (faint text)

十五百番子合

隆信御片

... (faint text)

六帖題

夜の内に片

... (faint text)

為家御

... (faint text)

文火九年毎日一巻中

日

... (faint text)

雷

題不知

積人不知

... (faint text)

六八題

後人の歌

八行本為流布

明仁天皇御宇の御宇に於ては

弘長二年丙寅二月 後二位行家

仙洞三尊院

山内少輔入彦守時

洞院極政

十題百首

十題百首

為善

十題百首

定安卿

十題百首

建仁元年

十題百首

前表議教長

十題百首

後京極極政

十題百首

伴隆

十題百首

常盤井

十題百首

從二位行家

十題百首

吉高 岩 丹

或抄言云云

天の原より出づる御書

藤原忠房

志し書かば

西行上人

山に寄る海にたまたま引て後

後鳥羽院

是の山に

家集様

事は

定家

建元十一年

有る人

六首歌合

善信

久世

後成

文

市大

信

内家

あ

山

山寺の松の心は... 此の松の心は...

六帖題の心は... 衣笠田舎片

久々の松の心は... 此の松の心は...

昔の松の心は... 清人の心

六帖題の心は... 信實朝臣

六帖題の心は... 後鳥羽院

昔の松の心は... 清人の心

六帖題の心は... 後鳥羽院

昔の松の心は... 清人の心

六帖題の心は... 清人の心

六帖題の心は... 清人の心

夜集村の心は... 忠孝

夜集村の心は... 忠孝

夜集村の心は... 忠孝

夜集村の心は... 忠孝

夜集村の心は... 忠孝

夜集村の心は... 忠孝

夜集村の心は... 忠孝

夜集村の心は... 忠孝

夜集村の心は... 忠孝

夜集村の心は... 忠孝

夜集村の心は... 忠孝

夜集村の心は... 忠孝

夜集ののこり
源仲正

うらふ月光の影はまはるはるのちのちのち
建保三年名所百首の月夜

僧正の書

あはれはまはるはるのちのちのちのちのち

百首の月夜
衣笠の書

山月はまはるはるのちのちのちのちのち

善願和尚

雪はまはるはるのちのちのちのちのち

可音秋火の書

月夜はまはるはるのちのちのちのちのち

月夜はまはるはるのちのちのちのちのち

月

今昔物語の
今昔物語の
今昔物語の
今昔物語の

月夜はまはるはるのちのちのちのちのち
安元三年閏五月初合

藤原明

月夜はまはるはるのちのちのちのちのち

花月百首の書
善信和尚

月夜はまはるはるのちのちのちのちのち

文永三年中務卿親王家三首歌合由藤

法下殿の書

月夜はまはるはるのちのちのちのちのち

此歌判者右心雲の月夜

文集の月夜

詞出の月夜

六帖題

為家婦

雨をたはらばしほりてはるる物なり

夜並内古片

雲の影をたはらばしほりてはるる物なり

後京極権取

六首書下合

謙倉右大臣

少くもたはらばしほりてはるる物なり

此の書は建暦元年七月世宗傳天

土臣徳歎とて書くとてはるる物なり

敦敏新念

和泉或部

夜集

〇勢如也

物へのたはらばしほりてはるる物なり

南小百首文合

慈徳和尙

目へのたはらばしほりてはるる物なり

文火十年書一為中

為家婦

物へのたはらばしほりてはるる物なり

立非題

光後和尙

物へのたはらばしほりてはるる物なり

月よ三首

信濃朝臣 信三郎

物へのたはらばしほりてはるる物なり

建保八年百首和合

物へのたはらばしほりてはるる物なり

夜集霖中雨

權僧正之朝

此雨久矣乃始雨之
建長八年可謂之合大
雨

藤原仲嗣好片

此雨判者為家婦之
子之少也乃始雨之
合大

新恒

六一唐不知

此雨判者為家婦之
子之少也乃始雨之
合大

日村雨

漢人不知

此雨判者為家婦之
子之少也乃始雨之
合大

船恒

六一春雨にやまのやまの

此雨判者為家婦之
子之少也乃始雨之
合大

夜集霖中雨

和泉好片

此雨判者為家婦之
子之少也乃始雨之
合大

清人不知

此雨判者為家婦之
子之少也乃始雨之
合大

夜集霖中雨

後頼好片

此雨判者為家婦之
子之少也乃始雨之
合大

夜集霖中雨

此雨判者為家婦之
子之少也乃始雨之
合大

夜集霖中雨

清人不知

此雨判者為家婦之
子之少也乃始雨之
合大

万十一

保安二年末^先合 法性入乃内

山伏の旅^先海^先の^先に^先は^先火^先を^先燃^先す^先人^先の^先身^先は^先火^先の^先中^先に^先居^先る

文永元年毎日一着中七月申四日夜

為^先の^先御

る^先火^先の^先中^先に^先居^先る^先水^先の^先中^先に^先居^先る^先事^先の^先中^先に^先居^先る

長久元年首子内親王^先夜^先の^先命

湊^先人^先の^先御

浦^先ら^先の^先舟^先に^先居^先る^先舟^先に^先居^先る^先舟^先に^先居^先る

六帖題^先の^先御^先の^先御^先の^先御

六帖題^先の^先御^先の^先御^先の^先御

六帖題^先の^先御^先の^先御^先の^先御

兼 久四年百着

後頼朝片

六帖題^先の^先御^先の^先御^先の^先御

六帖題

光俊朝片

少^先り^先火^先の^先御^先の^先御^先の^先御

建長八年百着^先合 後九条内^先片

灯^先の^先御^先の^先御^先の^先御

此^先御^先判^先者^先光^先俊^先朝^先片^先の^先御^先の^先御

眼^先と^先心^先の^先御^先の^先御^先の^先御

實治三年百着^先夜^先灯

後の^先御^先の^先御

後^先の^先御^先の^先御^先の^先御

雲葉影^先の^先御

人^先の^先御

山陽の白くさくさする雪の行かぬいづれも

百五十九
夜集

句

下まきくらの灯をたふさぬ人かまうさるる

六三
文應元年七絶

為夜心

夢をあらふくもくはし山井村風のまらぬ夕の灯

建久七年百廿八句
定夜心

おきくつらくもけりぬと夜月まはるるの灯

早世身山月裏灯暮年髪作鏡中髻

抄集

句

世は草花のまらぬ秋月をいづれも

津國のまらぬとまらぬと

文浦

流布平元

さう大村浦のむきかたの風ははな中も秋の月

豊玉今も核取成り百有約諸

為夜心

さう大村浦のむきかたの風ははな中も秋の月

千壽番三句

野をたはる

さう大村浦のむきかたの風ははな中も秋の月

六拍題

信墳朝長

さう大村浦のむきかたの風ははな中も秋の月

百有句

寐蓮法師

さう大村浦のむきかたの風ははな中も秋の月

家膳四天王院右所今もあはれ

大村のむきかたの風ははな中も秋の月

正治二年百為時云 後多内院

中書の備文は武しき大なるて村有の事人其の

小野宮百為時云 曰

何と云ふ世と云は後浦人の事なる事の中は

中務卿云

旅人の一持たる生火の公少なる事歸後其の

上行の事云

定也卿

少中書卿の事と云は其の事其の事其の事

東集殿似傳

西行上人

其の事其の事其の事其の事其の事其の事

久安百為冬云

香通の事

年と云は其の事其の事其の事其の事其の事

東集

西集

君の事其の事其の事其の事其の事其の事

文應元年七社百為為東集

少中書卿の事其の事其の事其の事其の事

長云

金村

なまの事其の事其の事其の事其の事其の事

千五百番の事

品陽門院殿云

石火の事其の事其の事其の事其の事其の事

東集百為事

家隆卿

思ひの事其の事其の事其の事其の事其の事

寛平時時云

友則

行きの事其の事其の事其の事其の事其の事

浅草の事

子日松

弘長九年平旦

後九條内太

たふさく一さきよさけささるはてふさくささるはてふさく

土行部三中大

後高橋核段

大

息一薪のふさくあつ火とせのささる

あつさる

煙

百首中

重文

たふさくささるはてふさくささるはてふさく

毎日一る半中火

高文部

ささるはてふさくささるはてふさく

月三中

高文部

たふさくささるはてふさくささるはてふさく

建長四年毎日一首中

日

朝早きし直事書の唐月分増さる可なり

千五百首五人

後段

たふさくささるはてふさくささるはてふさく

日

定

同方海は少の事なり片は久しき事なり

六百首三句

後高橋核段

たふさくささるはてふさくささるはてふさく

正治三年百首

日

たふさくささるはてふさくささるはてふさく

日

前大納言隆房

浦内やぐ壇多し... 日並に人

幕内... 能宣お片

正應三年三月十日

後成子女

正治二年百有

後一条天皇

洞院極政史百有

後一条天皇

建保三年百有

おんけり

塵

千五百番若所百有

立指題

若少... 若少...

日

氏中なる者

叔^新守^新部^新の^新名^新を^新教^新の^新一^新と^新比^新り^新に^新て^新る^新也

日

知事知

公^新の^新名^新を^新教^新の^新一^新と^新比^新り^新に^新て^新る^新也

日

光後御片

た^新の^新名^新を^新教^新の^新一^新と^新比^新り^新に^新て^新る^新也

日

信安御片

光^新の^新名^新を^新教^新の^新一^新と^新比^新り^新に^新て^新る^新也

東集由棟

西行上人

光^新の^新名^新を^新教^新の^新一^新と^新比^新り^新に^新て^新る^新也

廣田社^新予^新合^新社^新以^新常^新後^新成^新

光^新の^新名^新を^新教^新の^新一^新と^新比^新り^新に^新て^新る^新也

文永元年社頭書^新東^新集^新權^新僧^新正^新之^新朝

光^新の^新名^新を^新教^新の^新一^新と^新比^新り^新に^新て^新る^新也

東^新集^新由^新棟^新之^新中

道因信師

光^新の^新名^新を^新教^新の^新一^新と^新比^新り^新に^新て^新る^新也

百首之中

雅理師

光^新の^新名^新を^新教^新の^新一^新と^新比^新り^新に^新て^新る^新也

東^新集^新由^新棟^新之^新中

藤園直長史由大僧

光^新の^新名^新を^新教^新の^新一^新と^新比^新り^新に^新て^新る^新也

東^新集^新由^新棟^新之^新中

東^新集^新由^新棟^新之^新中

光^新の^新名^新を^新教^新の^新一^新と^新比^新り^新に^新て^新る^新也

曉

日 校の事も甚く致し校の事も甚く致し

日 支後 船

日 又も六つあり致し又も六つあり致し

日 亦昔々金書 後事校核

日 物取の事も甚く致し又も六つあり致し

日 又も六つあり致し又も六つあり致し

日 又も六つあり致し又も六つあり致し

此方の事も甚く致し又も六つあり致し

シ

舟集

中務親王

舟集の事も甚く致し又も六つあり致し

百首詩

頃徳院

舟集の事も甚く致し又も六つあり致し

風雜中

舟集の事も甚く致し又も六つあり致し

千五百首詩

雅往痴

舟集の事も甚く致し又も六つあり致し

日

野宮長

舟集の事も甚く致し又も六つあり致し

成二 七五九

六帖題

信實朝快

今斗夜路と夜路市
好くしりし者ふとるん
はくしりし者ふとるん

六帖題

為安端

信實朝快

曰

信實朝快

信實朝快

曰夕や

曰行兼

小車村乃丹小野
赤元三年十二月庚子夕梅

衆山院

赤元三年十二月庚子夕梅

乾元三年仙洞寺合夕

為安端

國内衆入相の

赤元三年仙洞寺合

曰

赤元三年仙洞寺合

初逢意

為安端

赤元三年仙洞寺合

六首番夕意

為安端

赤元三年仙洞寺合

六帖題

信實朝快

信實朝快

五行三中南

後帝松極政

玉著也まゝの集の集風子けつんじりあふりの志

白

定中次

堂そそくすけいけつる有居のたじりて思ひあふ

寂情四天王院若所御侍子

有中次御

妹夜羽のみなき日すしき有向村の集并る

席集菱湯山糸指時侍

藤倉右左衛門

伊豆^{玉神代}田山の南にけつる湯のたじりて思ひあふ

建久七年額百廿分

くらけつるみなあふに思ひあふて思ひあふ

北

高のま中水

後帝松極政

ふあふもあふに思ひあふて思ひあふ

白

定中次

日新中水村のたじりて思ひあふ

朗詠百首宮梅山雨雪封寒

為中次

日々にあふ枝の雪にさらけつるくあふまの梅え

紫

古首青^{刊元}のふみ朝 中^地宮大夫家^{坊次}種

四百九
長一

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written vertically from right to left.

Handwritten characters in a cursive script, possibly a signature or a specific name.

Handwritten text in a cursive script, continuing the vertical writing from right to left.

寛永十三 十一月十七日

代 守 持 合

控

1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900



110X
495
21